

第4回 明治記念大磯邸園邸宅保存活用計画検討委員会 議事要旨

【日時】令和2（2020）年1月27日（月） 16:00～18:00

【場所】九段第3合同庁舎 15階 会議室A～C

【出席委員】

委員：水沼委員、吉田委員

行政委員：竹内委員、森尻委員、笹山委員、佐川委員、野村委員、田中委員

【会議の概要】

1. 議事

（1）邸宅調査の報告（前回委員会以降の調査結果報告）について

委員）木製シャッターについて、葉山町の旧東伏見宮別邸にはまだ現存している。また、16年程前まで大磯町に現存していた三井守之助別荘にも木製シャッターが使われていた。その部材はそのまま保存されているため、参考にとすると良い。

（2）保存管理計画について

委員）旧大隈別邸は明治に繋がる唯一の建物なので、裏付けをとりながら大隈の時代もしくは古河の時代までさかのぼることができるように、資料調査をお願いしたい。

委員）陸奥別邸跡の基準とする年代の表記は、建物毎に明確にすべき。

（3）公開・活用計画について

委員）陸奥別邸跡の台所は保存部分であるものの、利用サービススペースの活用が設定されている。現状を傷めないで活用できるようにすることは大事なことであり、設備衛生の空間に少しでもオリジナルが残っていることは、邸宅がどのように利用されていたのかを知る上で興味深いので、今後の公開・活用に関しては慎重に検討してほしい。

委員）民間事業者のノウハウを上手く使いながら、各邸宅の良さを発信できるよう、活用方法を検討してほしい。

事務局）既に民間事業者へのヒアリングは進めているが、今後も幅広く事業者にサウンディングを行い、意見を聞きながら検討を深めてまいりたい。

行政委員）今後、邸宅の公開・活用を図るうえで、保存部分の既存の各用途を変えても良いと思うが、設定にあたっては、その理由と整備方針を明記したほうがよい。

委員）保存、保全、その他部分に関する活用方針を入れてほしい。

事務局) ご指摘を踏まえ修正する。

(4) 保護に係る諸手続きについて

委員) 旧滄浪閣に関しては、旧別荘からそのまま現在に至っているわけではなく、商業施設時代の歴史があって現在につながることから、当該時代の建物を多少でも留めておくのが良いのではないか。旧レストランも滄浪閣という名が今日まで繋がっている。今後の整備内容を考えると、記憶の継承という観点では、当該建物が商業施設時代を物語る最後のものになるのではないか。

事務局) これまでの利用に関する経緯など歴史的なことはアーカイブに残していくことを考えている。今後設計を進めながら、具体的にどこを残すかを検討することとしており、旧レストランの取り扱いは今後の検討課題としている。

委員) 旧レストランは、現状は町指定文化財の範囲でもあることから、取扱いは慎重に検討していただきたい。

委員) 邸宅の文化財指定に関する町のスケジュールを確認したい。

行政委員) 旧大隈別邸・陸奥別邸跡を先行的に、本年度内に大磯町文化財専門委員会に諮問をする予定であり、令和2年度の夏頃までに答申という流れで進めていきたい。その後、旧滄浪閣に関する文化財の手続きを進めることを考えている。

(5) 環境保全計画について

委員) 展示に関して、旧大隈別邸の五右衛門風呂は年代を検証できないのか。事実が不明なものは口伝に頼らず、不明としておいた方がよいのではないか。

事務局) 金属調査による年代分析は難しいので、詳細不明として扱うように修正する。

(6) 防災計画について

委員) 現状も夜間の有人警備による管理体制を行っているなど、注力して管理している旨をきちんと示した方がよい。

委員) 中間とりまとめの段階では、基本的な方針を記載し、詳細は今後の検討という認識でよい。

事務局) 然り。本年度は各計画の方針のとりまとめを行い、来年度の設計の中で具体の整備内容について計画に盛り込んでいく予定。

2. その他

- ・ 次回の第5回検討委員会は、令和2年3月5日に開催予定。
- ・ 3月30日に第3回明治記念大磯邸園有識者委員会を開催予定。

以上